

『就実論叢』第45号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2016年2月29日 発行

「桃太郎」を用いた「教育学概論」授業実践

Lesson Practice of “Introduction to Pedagogy” based on *Momotaro*

渡 邊 言 美

「桃太郎」を用いた「教育学概論」授業実践

Lesson Practice of “Introduction to Pedagogy” based on *Momotaro*

渡 邊 言 美

WATANABE Kotomi

キーワード 桃太郎 教育学概論 教育史 子ども像 アクティブ・ラーニング

はじめに

本稿は、本学「教育学概論」での「桃太郎像の変遷」と題する90分間の授業実践の意義と成果、今後の課題について報告するものである。

この講義は、桃太郎を素材として、日本の近現代の「子ども」観の変遷をあきらかにし、理解することを目的とする。身近な題材を取り上げることを通して、子ども観や教育観についての興味を深める事を意図している。

Iでは桃太郎像についての先行研究の特徴を示す。IIではこれまでの大学等での桃太郎を題材とした授業実践を紹介する。IIIでは筆者の実践内容を報告する。IVでは学生の授業アンケート結果を提示する。Vでは、アンケートでの指摘や実践から得た課題を提示する。

I 桃太郎像についての先行研究

桃太郎像に関する先行研究は数多い。このうち今回の授業に直接関連すると思われる文献を、筆者なりに以下3つに分類し紹介する。

(1) 中近世から現代に至る桃太郎話の分析に関するもの、

- ・滑川道夫(1981)『桃太郎像の変容』東京書籍
- ・中内敏夫(1983)「教材『桃太郎』話の心性史」「産育と教育の社会史」編集委員会編『学校のない社会 学校のある社会』叢書 産育と教育の社会史1、新評論

17世紀から1910-20年代の桃太郎像の分析。「若衆」にかわって「少年」桃太郎像が、公教育の教材の作り手・使い手の次元で少年期桃太郎のイメージが発明され、家族の「いつくしみ」のもとに育っていくものとされたとし、「盗賊まがいの陽気な侵略者」から、「善なる進攻者」に変身した。さらには「天子様に忠義をつくしたくてという動機論になり、勝った理由にも同じ説明が出てくる」と指摘(p.221)。

- ・白方勝(1993)「昔話『桃太郎』の原像」『愛媛大学教育学部紀要』第II部人文社会科学、vol.26

子ども向きの江戸版赤本『桃太郎』の分析から、桃太郎話の基本的性格は致富譚であり、貧しい農民が男子に託して良い暮らしを夢見た物語であり、「略奪・侵略の趣が出た」と

指摘した。「明治以降は小学校唱歌・教科書は単純化して、『赤本』の持つ戦国期的なニュアンスを切り捨てた」と指摘。

・杉浦篤子（1994）「桃太郎像の系譜」『藤女子大学・藤女子短期大学紀要』第32号第Ⅱ部これまでの昔話の法則とは異なる結末の絵本が出てきていることの例として、鬼が人間と共存する結末の桃太郎絵本を紹介。

・鳥越信（2004）『桃太郎の運命』ミネルヴァ書房

19世紀末から21世紀初頭までの桃太郎話の分析。年代ごとに「皇国の子」「童心の子」「階級の子」「侵略の子」「民衆の子」と分類。特に先行研究ではふれられることの少ない、昭和戦後期・平成の桃太郎話の分析がなされている点が特徴。

(2) 健康優良児表彰、身体をテーマに関連するもの

・朝日新聞社編（1995）『桃太郎さがし—健康観の近代—』（朝日百科別冊歴史を読みなおす 23）朝日新聞社

・鹿野政直（2001）『健康観にみる近代』（朝日選書, 674）朝日新聞社

・高井昌史・古賀篤（2008）『健康優良児とその時代—健康というメディア・イベント—』青弓社

・大藤幹夫（2009）「昭和60年代の『ももたろう』話と発行年不詳の『ももたろう』絵本」『大阪総合保育大学紀要』第4号

昭和60年代及び戦後発行年不詳の「桃太郎」絵本の内容分析。大藤は戦後年代別の桃太郎話の分析を行っている。

(3) 「理想の子ども」としての桃太郎像に関するもの

・石岡学（2004）「『理想の子ども』としての桃太郎—新聞報道における健康優良児のイメージ—」『教育社会学研究』第75集

新聞報道を主たる史料として、健康優良児の健康な身体が示す“理想”の意味を探る。

「健康優良児への視線があらゆる点において優秀な『日本一』の児童に対する視線であった」と指摘し、「桃太郎探し」という呼称は「実に絶妙なネーミング」であったとする。

石岡は「日本一の女子は「男並み」であることによって賞賛されていた」ことから、小学生に求められた健康の基準は男子におかれていたことがうかがえる」と指摘。

・加原奈穂子（2010）「昔話の主人公から国家の象徴へ—「桃太郎パラダイム」の形成—」『東京藝術大学音楽学部紀要』36巻

桃太郎の国民童話化の議論の視点として・国定教科書の掲載・絵本による視覚イメージの浸透、「理想の子ども」としての桃太郎像とその変容、の3点から分析。「桃太郎」の最大の特徴は、近代以降、時代のイデオロギーに応じて、様々に読み替えられてきたことである。それを可能にした前提が、国民童話としての桃太郎—標準型の桃太郎、標準語での記述、画像

のステレオタイプ—の共有であった」と指摘。

- ・林鎮代 (2012) 『『読みがたり』に登場する『鬼』—子どもに語る昔話から—』『関西国際大学研究紀要』第13号

鬼の話には「子どもに伝えたいことや子どもに期待することなどが込められて」おり、「近年はグローバル社会となり、互いの違いを認め合って、相手の立場で考えることのできる子どもの育成が望まれるようになった」こと、「鬼に思いを寄せた創作童話が出版されるようになった」事を指摘。

その他、筆者は桃太郎を直接のテーマとはしないものの、理想の子ども像についての研究として以下を参照している。

- ・片桐芳雄 (1995) 「優等生の社会史—学級と優等生—」(中内敏夫・長島信弘『社会規範—タブーと褒賞—』藤原書店)
- ・河原和枝 (1998) 『子ども観の近代—「赤い鳥」と「童心」の理想—』中央公論新社
- ・広田照幸 (1999) 『日本人のしつけは衰退したか —『教育する家族』のゆくえ—』講談社

II 桃太郎像についての大学授業実践例

この章では、これまでの桃太郎を素材とした大学授業実践研究を紹介し、それぞれに参考にすべき点を提示する。

- ・岩崎好成「現代版・桃太郎ばなしと歴史教育の基礎」(1998)『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第9号

岩崎は、「初等科社会(歴史学)」2回分における「桃太郎ばなしの変容」講義と、「現代版桃太郎像」についての学生アンケート作成作業と紹介を通して、歴史学のルールや歴史像の歪曲についての理解を深めることをめざしている。現代版桃太郎について「新たな桃太郎像をつくるとしたらどうなるか」を学生に記述させている。1984年から1997年度の学生提示の桃太郎像を分析した。常に各年次の上位に「学歴社会・受験戦争の子」「平和・友好・国際協調の子」「無気力・無関心の子」の3点があった事を指摘した。

筆者は、岩崎の実践は歴史学講義の導入部分で学生の興味を喚起する方法として有効であると考えた。

- ・畑岡隆 (2006) 「絵本を用いた福祉の理解 (3)・実践篇Ⅱ—芥川龍之介原文『MOMOTARO 桃太郎』ほかによる、環学アプローチにもとづく授業実践—」『山陽学園短期大学紀要』第37巻

畑岡は、保育者養成における「視点を変えた複眼的思考による、人間観等の再構築」をねらいとして「社会福祉援助技術」教材に芥川龍之介原文の絵本を取り入れている。鬼から見た桃太郎に、人間の行いの考えや身勝手さが象徴されることが論じられている。

筆者は、畑の実践は芥川版桃太郎は「侵略者」としての位置づけであり、1990年代に桃太

郎絵本にふれたであろう受講生にとって、新たな視点から対象を分析することの重要性やおもしろさが伝わる授業になったと考える。

- ・林伸一（2007）「桃太郎の鬼を主人公にした物語作成—日本事情教育と自己表現—」中国四国教育学会『教育学研究紀要』第53集

林は「日本語学講読」授業時に、留学生を含めた学生が鬼を主人公にした桃太郎物語を作成する課題を提示し、談話分析を行っている。善玉と悪玉の交代による視点の変化、一つの話をも批判的に見ることの重要性を指摘するとともに、勧善懲悪の設定の仕組みや、いじめられる立場について考えることを通したいじめの予防・対策への効果も指摘している。

筆者は、留学生と日本人学生の協働的な学修を通して、批判的思考の育成を図っている点が参考になると考える。

- ・立石展人（2010）「昔話の変遷—『桃太郎』絵本を例として」『立教女学院短期大学紀要』42号

立石は、短期大学の幼児教育科学生の記憶する桃太郎話の分析を行った。その結果、桃太郎と動物の関係が主従関係から協働関係へ変化していること、話後半の鬼退治以降の簡素化が見られることが明らかになったという。この点に関して、平成年代（1989-2009）刊行の桃太郎絵本の収集分析を行っている。動物との関係は、「家来、お供」など主従関係で書かれたのが70話、「仲間になる、一緒に行く」など協働関係で書かれているのは26話。宝物を運ぶ際は、動物だけが犬八車を引くものが35話、桃太郎が共に引くものが21話となった。学生の記憶とは異なり、平成の出版物においても、動物との関係は主従関係が多数であることを指摘した。これについて、学生の意識が、物事をなすときの相手を、主従関係でなく協働関係で捉えようとする意識が働いていると見ることもできよう」と指摘した。

筆者はこれまで、学生の身近な話題を取り上げながらも、学生自身の記憶や認識の確認を怠ってきたことに気づかされた。また本研究の時点で学生の記憶が、すでに協働関係に変化していることが指摘されたことは重要である。

- ・西山淳子（2014）「『桃太郎 海の神兵』鑑賞ノート—総合教育課程『異文化コミュニケーション』講義より—」和歌山大学学芸学会『学芸』第60巻

西山は言語文化政策や異文化理解の素材として同映画を授業で上映し、学生の感想として「質の高い優れた映画」であるとともに、「当時の子供たちへの影響力を考えると、嫌悪や恐怖を感じる」と紹介している。

筆者は、学生が実際に映画を鑑賞し、気づきを語ることは学生の理解を深める有効な手法であると考えます。

以上の実践を参考とし、筆者が今後教職科目の授業実践実全般において実践したいと考えたのは以下の3点である。

- ・学生自身の体験の振り返り（ここでは桃太郎にふれた経験や、記憶している話の内容）を取り入れるべきであること

- ・アクティブ・ラーニング（作業や発表、グループ学習など）を促進すべきであること
- ・多彩なメディア（アニメ、映画、報道等）を積極的に活用すること

Ⅲ 筆者の実践

この章では、一昨年から実施している「桃太郎像の変遷」授業の概要と課題を示す。本学での科目は、就実大学の中等教職科目（1年次後期）「教育学概論」（中等）・同（心理）全15回の授業の1回分（計約180名対象）である。人文科学部では総合教養科目と必修の中等教職科目・社会教育主事資格科目を兼ねており、1年次教職課程履修者のほぼ全員が履修する。教育学部教育心理学科では卒業必修科目であり、1年次生全員が履修する。両科目とも教職や子どもにかかわる専門職を目指す学生が大部分であり、教職や専門職のための基礎教養の習得および教職・専門職への意欲付けが大きな課題となっている。

教育学概論15回のうち、「子ども観」については、例年以下計5時間を用いて講義を組み立てている。どんな子どもをどのように育てたいか、という大人や社会の理想が反映された「子ども像の変遷」を軸に置くことで、近代学校制度の成立、教育学理論の流れを把握しやすくすることを意図している。

なかでも筆者が「桃太郎像の変遷」を教材として取り上げるのは、学生が絵本やアニメ、ゲーム等で親しんでおり、岡山においてなじみ深い素材を用いることで、興味を持ちやすいと考えたこと、中近世より伝承された素材であり、時代毎の変化を調べることが可能であることによる。5回分の授業構成は以下の通りである。

I 西洋

- ①中世の子ども観：「小さい大人」としての子ども 徒弟制、凶像資料
- ②近代における「子ども」の発見 近代公教育制度の成立の背景、近代教育学理論、子ども部屋・子供服などの文化
- ③現代における「子ども期の消滅」ポストマン、イリッチなどの論、ホームスクール

II 日本

- ①中・近世の子ども観 戦国時代武家家訓、七五三などの習俗、間引き、貝原益軒
- ②近代の子ども観 児童中心主義、「童心主義」「学歴主義」「厳格主義」（広田照幸）
- ③現在の子ども観 PISA型学力、教育問題

本時授業は、上記の「II 日本②近代の子ども観」において実施している。構成は以下の通りである。

1 授業のねらい

岡山での桃太郎（マンホール、駅前の桃太郎像）を紹介し、なじみの素材であること、理想の子ども像を体現した存在であるという視点から紹介すると説明。

2 時代ごとの桃太郎像の変化

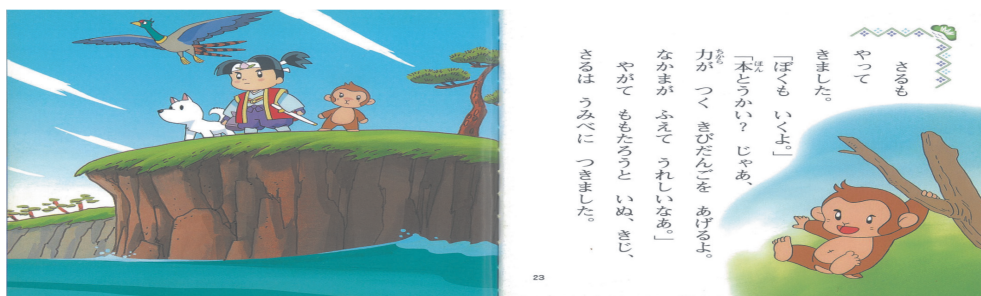
- ・国定教科書の記載、絵本の記述の変化

3 「桃太郎さがし」健康優良児表彰制度の概説

- ・1934年網干尋常小学校映像「映像タイムトラベル 尋常小学校の子どもたち 明治31年～昭和11年」（ABCで2001.4.20放送分）のうち、1934年の朝会・閲童式の映像、健康優良児横山君の映像（表彰式への出立シーン、学校生活、家庭での過ごし方）を視聴。感想の記述・発表。
- ・健康優良児の概念規定や表彰に当たっての選考基準について考えさせる。
- ・理想の子どもを桃太郎になぞらえていたことを紹介。（東京朝日新聞の記事、表彰メダル等の画像）最後に、健康優良児は戦時下においては「『兵力』として考えられていくようになり、皮肉にも、男子の場合「『健康優良』であったならばいち早く召集され」たと説明する（前掲高井・古賀、pp.46-47）。

4 『日本昔ばなしアニメ絵本⑤ももたろう』（2011）永岡書店刊（文：柳川茂、脚色・構成水端せり、絵：宮尾岳）を紹介し、絵本『ももたろう』の描写からみた、近年の桃太郎像について紹介する（下線部筆者）。

「さるも やって きました。「ほくも いくよ。」「本とうかい？じゃあ、力が つく きびだんごを あげるよ。なかまが ふえて うれしいなあ。」 p23（図1）



「やっとならしが すぎました。みんなは きびだんごを たべて げん気いっぱい。いぬと さると ももたろうが こうたいで こいだので、小ぶねは ぐんぐん すすみます。」 p27（図2）



「おにの 大しょうも 子ぶんも こうさんして、手を ついて 大あやまり。「もう わるい ことは しません。」「それなら ゆるして あげるよ。」 おにたちは よろこんで、山

のような たからを はこんできました。p41 (図3)



「ももたろうたちは たからを もちかえると、一つずつ もちぬしの ところへ かえし
ました。「あと すこしで おしまいだよ。」いぬ、きじ、さるも 手つだって、ぜんぶ か
えすことが できました。」p42 (図4)



上記の描写から、自分が知っている「桃太郎」との違いを考えさせる。例として、犬サル
キジは「お供」ではなく「仲間」として認識されている(図1)こと、舟は交代でこぐ(図
2)こと、鬼を殺害しない、重傷を負わせていない(図3)こと、宝物は桃太郎達が返却し
て回っている(図4)ことなどを指摘させる。

次に筆者から、他の桃太郎絵本でも同様の傾向があると説明。例として、『それからのも
もたろう』(2004)(作川崎洋、絵国松エリカ、岩崎書店)を紹介し、鬼ヶ島で鬼と人間達が
共存する結末となっていると説明する。

5 現在の、理想の子どもとしての「桃太郎」像を描くとしたら、どんな桃太郎が望ましい
と想定されるか? 学生自身に考え記述させる。(2015年の講義では、問いかけのみで時間切
れとなった。)

筆者が他の授業実践を参考にして取り入れたのは以下の点である。

- 1 網干尋常小学校の映像を通して、「理想の子ども(桃太郎)」の実例(横山君)を示し、
学生に当時の子ども観の特徴や現代との違いについて考えさせたこと。
- 2 実際の絵本の描写を細かく紹介したこと。
- 3 現在の「理想の子供としての」「桃太郎」像を考えさせることで、教員等こどもとか
かわる専門職を目指す立場として、自身の児童観、生徒観を改めて考える契機にすること
を目指していること。

「桃太郎」を教材化する以前は、画像は用いるものの、制度や法規の変遷や特徴を講義する形式が多く、学生自身が主体的、多面的に考え、作業する機会に乏しかった。今後の筆者のすべての授業改善の契機になる取り組みとなった。

IV アンケートの実施と結果

これまでの実践の効果と課題を把握するため、2015年後期「教育学概論（心理）」第4回講義にて、10月20日に以下のアンケート調査を行った。受講生90名（教育心理学科卒業必修、主として1年生対象）のうち、84名の回答を得た。

I 問1～問5 の質問にあてはまる数字を、各問1つだけマークしてください。

問1 これまであなたが知っていた桃太郎像は、次のどれに近いですか。1つだけ選んでください。

1 強い兵士、日本軍人 2 健康優良児（理想の子ども） 3 犬猿キジをお供にして鬼退治する存在 4 犬猿キジと仲間になり鬼退治する存在 5 鬼と仲直りして仲良くする存在

問2 桃太郎のお話が時代により変化していたことは知っていましたか。

1 よく知っていた 2 ほとんど知っていた 3 いくつか聞いたことがある 4 ほとんど知らなかった 5 まったく知らなかった

問3 桃太郎が、近代日本の理想的な子ども像を体現していたという説明は理解できましたか。（問6に関連質問）

1 よく理解できた 2 ほとんど理解できた 3 いくつかわからない事がある 4 ほとんど理解できなかった 5 まったく理解できなかった

問4 桃太郎のような身近な素材（他の事例でも可）を用いて、「子ども観の変遷」の講義に活用することにより、子ども観に興味を持てるようになると思いますか。（問7に関連質問）

1 非常に持てるようになる 2 それなりに持てるようになる 3 他の一般的講義と変わらない 4 ほとんど持てない 5 まったく持てない

問5 本講義（第4回）全体の評価をお願いします。この第4回を通して、教育学全般への興味関心がこれまでよりも深まりましたか。

1 大いに深まった 2 以前よりは深まった 3 変わらない 4 ほとんど深まらなかった 5 まったく深まらなかった

II 以下の質問に、よろしければ記述式で回答をお願いします。

問6 上記問3の回答について、その理由を記述してください。

回答（1～5の数字）理由

問7 上記問4の回答について、その理由を記述してください。

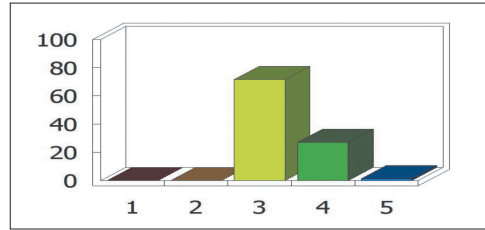
回答（1～5の数字）理由

問8 本講義（第4回）全体の感想があればお書き下さい。

アンケート結果の集計結果を以下に示す。

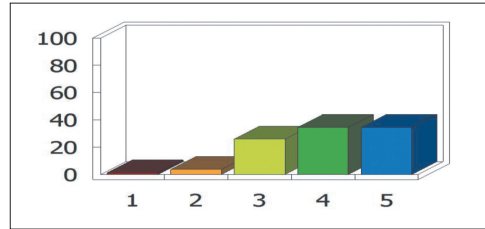
・マークシート回答

問1は、回答1:0.00%、2:0.00%、3:71.60%、4:27.16%、5:1.23%と、3（犬猿キジをお供にして鬼退治する存在）を選んだ学生が70パーセント以上であった。



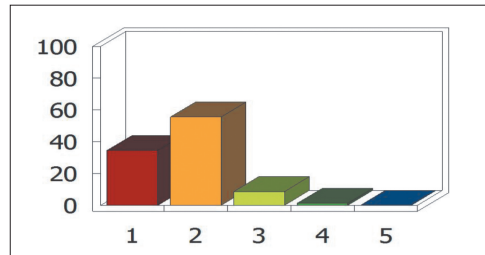
問1

問2は、1:1.23%、2:3.70%、3:25.93%、4:34.57%、5:34.57%と、4（ほとんど知らなかった）・5（まったく知らなかった）が約80パーセントを占めた。



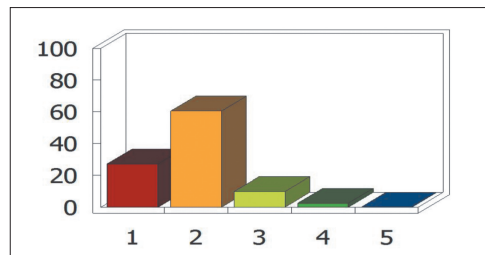
問2

問3は、1:34.57%、2:55.56%、3:8.64%、4:1.23%、5:0.00%となった。1（よく理解できた）・2（ほとんど理解できた）の2項目で約90パーセントを占めた。



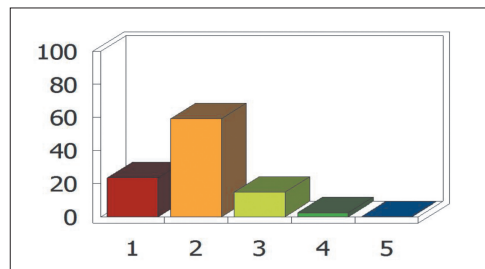
問3

問4は、1:27.16%、2:60.49%、3:9.88%、4:2.47%、5:0.00%であった。1（非常に持てるようになる）・2（それなりに持てるようになる）合計で80パーセント以上を占めた。



問4

問5は、1:23.46%、2:59.26%、3:14.81%、4:2.47%、5:0.00%であった。1（大いに深まった）・2（以前よりは深まった）の合計で約83パーセントを占めた。



問5

・自由記述の回答例

問6（桃太郎が、近代日本の理想的な子ども像を体現していたという説明が理解できた理由）

- ・時代によって桃太郎の言動や、話の内容が変化していることが時代の変遷と同じだったりする部分が、当時の理想の子ども像をよく表していると感じました。
- ・ビデオや資料が豊富で分かりやすかったから。
- ・戦時中には、鬼が白人として、桃太郎が日本人として、「鬼畜米英」という時代の流れを含んで描かれていたことも新発見でした。
- ・その桃太郎像が出された時の日本の状態と、政府の希望を反映させるという事だった為。
- ・健康優良児に贈られるメダルが桃太郎であるから。
- ・昔は、リーダーシップがあり、何事も積極的に自分から行う。また、悪は絶対許されない。しかし、今は、何でも暴力で解決はよくないという、話し合いで解決しようという考えが増えている。
- ・(いくつかわからなかったことがある理由) 女子の場合も同じように何かにたとえているのか分からなかったから。

第7問（身近な素材の活用は効果的だと思うか）

- ・岡山県には特に身近で、桃太郎に当てはめると、おもしろくて理解しやすいと思う。
- ・将来、ほとんどの人が学校という場で働くと思うので、そういう点で考えたら、子どもたちとたくさんふれあい、身近な素材を用いて講義することにより、子ども観に興味をさらに一層抱くと思う。
- ・昔話だけでなく、現代のアニメに置き換えて考えてみることで、すごく興味が沸いた。
- ・現代の子ども、以前の子どもの違いが見えてくるから。
- ・多少なりは興味を引き出せると思うけれども、元々「子ども観の変遷」に興味が無ければ難しい気がする。
- ・少しおもしろそうだと思った。前よりはだいぶ興味は出てきた。

問8（全体感想）

- ・最近の桃太郎はどうなっているのか探したいと思った。
- ・自分が知っている桃太郎のお話よりも、平和的思考になっていて驚いた。他にも同じように変わっているものがあるのか気になった。
- ・私たちの世代でいう、ポケモンのサトシやプリキュアなど、優しく、勇気のある愛を持った子どもが理想なのかなと思いました。
- ・健康優良児は一番最初に戦地へ向かわされてしまうのは本当に彼らの家族にとって名誉なことだったのか疑問だ。
- ・身近な素材を使った子ども観の授業は、とてもおもしろかったので、今後もこのような授

業をして欲しい。

- ・その時代によってしてはいけないこと、しても大丈夫なことなど法律などによって変わると思うが、ストーリーは変えてほしくないなと思った。昔の考え方も残しておくことが大切だと思う。

以上の回答から、今回のアンケート調査に見る限り、以下のことが指摘できる。

- ・学生のこれまで知っていた桃太郎像は、明治時代に語られて定着した、お供をつれて鬼を退治するストーリーが主流である。ただし4「仲間」として動物を認識していた学生が27.16%存在している。
- ・桃太郎のお話が時代により変化していたことは大多数の学生が知らなかった。
- ・桃太郎が、近代日本の理想的な子ども像を体現していたという説明は多くの学生が理解できたと考えられる。
- ・桃太郎のような身近な素材を講義に活用することは、子供観の変遷を理解する上で有効である。

以上のことから、今回の試みはおおむね、筆者の意図が学生に伝わりやすく、興味を引き出しやすい内容であったとみることができる。

V 今後の課題

本科目の場合、教育学部教育心理学科生は卒業必修、人文科学部生は資格必修であるため、卒業もしくは資格取得のために仕方なく履修する学生も存在するであろう。2年時以降の教職専門科目のための基礎作りにもなる科目であり、その後の学習意欲を高めるための取り組みを充実させていく必要がある。

「教育学概論」は大人数の講義形式であるため、教室での授業実践となる。15回の全体構想のなかでは1時限におさめる必要があるため、時間的作業的制約がある。このことをふまえて、今後工夫を重ねたい点は以下の2点である。

①アクティブ・ラーニングの取り組みの工夫

筆者の2014年度ゼミでは、「桃太郎のからくり博物館」（倉敷市）におもむき、筆者の初等教育学科ゼミ生12名とともに館長の解説をうけた。前出の映画「桃太郎 海の神兵」（1945）も視聴した。学生は実地に展示を目にしてその変化にふれ、絵本や映像を通しての視覚効果の重要性も理解することができたと思われる。今後も、受講人数等の物理的制約はあるが、可能な限り実地に学校や子どもに関する展示や催事へ参加していくこと等を通して、教育学や子どもに関する興味関心の増進に工夫を重ねていきたい。教室での授業では学生自身が考え、作業する機会を増やしたい。

②多面的な思考の促進

今後教育学概論では、多面的な思考、批判的思考の意義の理解や、学生自身の思考の促進を図る取り組みを進めたい。今回実施のアンケート回答に、「いい子の定義を作らないほう

がいいんじゃないかなと思った」「今の桃太郎は平等すぎておもしろくないと思いました」といった指摘が見られたことは、学生が筆者の説明を鵜呑みにするだけでなく、多面的な思考を行っている例として注目したい。今年度より使用しているテキスト（池田隆英・楠本恭之編著（2015）『なぜからはじめる教育原理』建帛社）では、楠本が人間や教育について考えるための4つの様式（「分けずに考える」「相対的に考える」「『当たり前』を外して考える」「因果性にとらわれずに考える」）を提示した。この4つの様式を用い、効果的に学生自身の思考の促進に働きかけられるような授業の工夫を行いたい。

最後に紹介したいのは、日本新聞協会「2013年度新聞広告クリエイティブコンテスト」（テーマ：しあわせ）最優秀賞「めでたし、めでたし？」である。これは「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」という子どもの手書きコピー文、「一方的な「めでたし、めでたし」を、生まないために。広げよう、あなたがみている世界。」とキャプションのついた、鬼の子どもが泣くイラストからなる広告である（代表山崎博司（博報堂））（図5）。この広告は、筆者自身がこれまでの授業実践を再考するきっかけとなる作品であった。今後の教職課程の授業実践を通して、学生のみている世界を広げるような授業に努めたい。

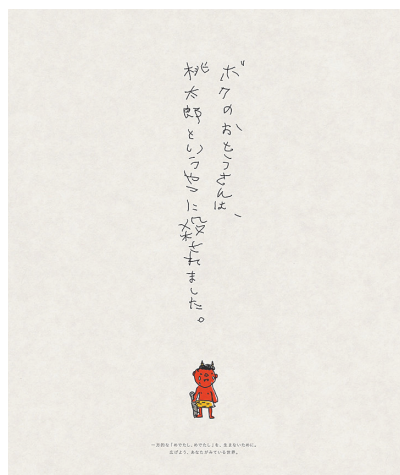


図5

附記 本報告に関する資料収集に当たって、快く展示収集品の見学・撮影を許可していただき、桃太郎像についてご教示下さった「桃太郎のからくり博物館」館長住宅正人氏に御礼申し上げます。またアンケート調査に協力してくれた「教育学概論」（心理）受講生の皆さん、桃太郎の絵本を各地図書館で収集してくれた山根みゆきさん、アンケート調査集計作業に協力してくれた多田早也香さんに御礼申し上げます。